

学校名	令和8年度 山形市立鈴川小学校	校長	金山 治行
	山形市鈴川町三丁目7番10号 TEL 6 2 2 - 2 1 5 8 FAX 6 3 3 - 9 5 7 1	研究主任	横山 洸
研究主題	「気づき、考え、働きかけ、受けとめる」子どもの育成（第四次） —子どもが主体的に学びをつくり、学びを調整することで 「ともに、暮らしをつくる」—		
研究主題設定の理由と目標	子どもたちが人生を歩む上で様々な問題場面に出会う。それらの問題を解決するために、問題を正確に把握し（気づき）自分事としてめあて（課題）をもって問題解決に挑む主体的な態度（考え）が必要であると考え。さらに、自分一人では到底解決できない問題は、専門家や仲間と解決しようとする協働的な態度（働きかけ）も必要だろう。そして、自分なりに振り返り、その問題解決の方法や最適解を修正・更新（受け止め）し、暮らしをつくる人になってほしいと願っている。 昨年度の研究のまとめにおいて、「3つの具体的な視点」に基づき研究を進めたが、以下の点について十分な成果が得られなかったという課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの主体性：授業が「子ども主体の学び」になっていたか、その判断が難しい。</li> <li>・子どもの姿の把握：「気づき、考え、働きかけ、受けとめる子どもの姿」といった、子ども主体の学びを体現する具体的な姿や授業のあり方が明確になっていない。</li> </ul> それらをふまえ、今年度は授業づくりの具体的な視点を定める前に、研究テーマの根本的な確認と深掘りを行いたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマ（変更なし）：「気づき・考え・働きかけ・受け止める」子どもの育成</li> <li>・研究の焦点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「子どもが主体の学び」における子どもの姿とそのための手立て</li> <li>2. 「自己調整力」が身についた子どもの姿とそのための手立て</li> </ol> </li> </ul> 今年度は、この2つに焦点を当てて探究を進め、「子どもが主体となる授業での子どもの姿」とそのための「教師の具体的な手立て」を明確にしていく研究を目指していきたい。このことは、令和の日本型教育に示されている「個別最適な学び・協働的な学び」にもつながるとともに、自己調整力を養うこともできる。 これらの研究を通して、令和の日本型学校教育の充実を推進し、「気づき・考え・働きかけ・受け止める」子どもの育成を目指して校内研究を進めていく。そして、全ての子どもを「ともに、暮らしをつくる子ども」に育てていきたい。		

研究の内容及び方法

研究の内容

1 子ども主体の学びの研究をする

- ・子どもは有能な学習者にとらえ→自ら学ぶ→学習者中心に授業を作る
- ・具体的な姿を通して実践研究を積み上げていく。
- ・子どもの姿をもとにした事後研究会とする。

2 職員の協働研究を大切にする

- ① 学年部で事前研究・研究授業・事後研究を推進する。
- ② 授業者とその学級の児童の姿から学ぶ意識をもつ
  - ・参観者は、学習活動案・研究授業・事後研究会で、授業者と児童の姿から成果を見出し、日頃の実践に活かすようにする。授業者は、授業後と事後研究会後で、省察した自分の成果や課題を子どもの姿から見出し、日頃の実践で活かしたり解決したりする。
- ③ 学校生活全ての活動を校内研究の考え方で実践していく。(行事も)
- ④ 学年で単元をそろえる。
- ⑤ 子どもの姿、上手くいかなかったことから学ぶ(子どもがくいつかなかったなど)
- ⑥ 1年に1回の研究だけでなく、何回か授業を見せ合っていく。(無理なく、指導案なしでもOK、挑戦してみるでもOK)

3 令和の日本型学校教育への移行

- ① 能動的な学習の文脈(主体的・対話的で深い学び)を意識した単元づくり。
- ② 一人一人に応じた学習の文脈(個別最適な学びと協働的な学び)を大切にして個別最適な学び・指導の個別化・学習の個性化を探究していく。
- ③ 行事総合ではなく、子ども主体の探究のサイクルを回し探究的思考力を育成する総合・生活をする

学習の流れ

- ① 情報の受信(インプット) → 情報を主体的に受信したくなる課題設定、課題解決へ向かう(実体験)
- ② 情報の発信(アウトプット) → 表出することで自覚化、異なる多様な他者の情報の分析(言語化・視覚化)
- ③ 情報の再構築 → 再思考・更新・修正・一般化・概念化  
 まとめとふり返りを大切にしていく(言語化・視覚化)
  - ・各教科等の「見方・考え方」を働かせた深い学びについて、まとめることができる
  - ・児童が学習のまとめやふり返りを自らの言葉で表現できるようにする。

(振り返り→気づき→課題設定→情報収集) 統合化メタ認知 学習の構造化・連続性・日々の暮らしへ

・昨年度野口先生から教えていただいた算数の授業の流れ

問題→課題→見通し(既習から)→めあて(個人)→課題解決(個人)→共有→振り返り(自己調整力)

・日ごろから課題やめあて、まとめ、振り返りを考える、共有する時間をとる

\*学習を子ども主体にし、見通し、振り返りの時間をとることで自己調整力を養う。

・大研は基本算数で行う。(変更可)

4 指導案・研究のまとめについて

・指導案は 形式自由(A4一枚でも可) 枠が欲しい場合はフォルダからとる。

(単元計画、大切にしてきたこと、つけたい力や目指す姿に向かってどのような手立てを取ってきたか、これまでの過程、活動の様子、写真などぜひ)

・授業後まとめを授業者がつくり、紙で配付。データも研究のフォルダに入れる。形式自由

・紀要なし

研究の計画

4 研究の計画・組織  
 (1) 校内研究会の全体計画

	日程	内容(研究授業学級・授業者)	担当	アドバイザー
第1回	5月1日(金)	主題・計画の提案	推進委員	
第2回	5月8日(金)	カリキュラムデザイン作成	推進委員	
第3回	7月22日(水)	授業研究会【大研①】	2年	野口先生
第4回	11月5日(木)	授業研究会【大研②】	4年	野口先生
第5回	12月18日(金)	授業研究会【大研③】	5年	野口先生
第7回	12月16日(水)	研究の成果と課題について	各学年	
第8回	1月22日(金)	全体の成果と課題と来年の方向性	推進委員	
	月 日 ○	幼保小連携 鈴川幼稚園の先生方授業参観(全学年) 鈴川幼稚園の先生方と授業について語る会		

- ※ 同学年の学級は、同じ教科・同じ単元の授業を行い、授業創りに協働的に研究を行う。  
 授業研究会を学年部(低・中・高)で行う。【大研】は学年部で1授業提案。【大研】ではない学年は中研。【大研】【中研】以外の先生は小研として授業を行う。
- ・中研はできるときに設定する6月までに決める。
  - ・一か月前に研究授業の日程(事前研日、授業日、事後研日)を決め、教務へ伝え、週予定で全員に周知する。
  - ・事前研は単元が始まる前に行う。
  - ・個別学級は授業を全員でつくり、代表者が授業する(知的1、情緒1など)大研はしない